

会員企業探訪

山陰初の宿泊スタイルで若者、インバウンドを誘客

浅利観光株式会社 代表取締役社長 植田 祐市



JR松江駅前という便利な立地の松江アーバンホテル



外国人観光客の取り込みも順調に



使い勝手やデザイン面でも細部にこだわり、従来の「カプセルホテル」のイメージを払拭



女性フロアには、駅前のゲストハウスをイメージした専用ラウンジを作った

経営理念

〈アーバンホテル〉

駅から徒歩3分の好立地で、全館Wifi対応。地元の健康食材をふんだんに使った朝食バイキング。ビジネスや観光の拠点として、リーズナブルにお応えします。

低価格帯で新しい旅行需要を創出

松江アーバンホテル、松江ニューアーバンホテルなど松江市内で3つのホテル(計5棟)を運営する浅利観光株式会社。このほど山陰では初となるカプセルタイプの簡易宿所「キュービックルーム」を松江駅前の松江アーバンホテル2号館内にオープンさせ、その低価格戦略とも相まって、大きな話題となっている。「若者の旅行者やインバウンドも含めた新しい需要を取り込みたい」と新事業を見込む植田祐市社長。導入の背景には若年層の旅行離れがあるという。2000年前後に社会人となった、いわゆるミレニウム世代は、節約・儉約志向が強く、可処分所得が上がらなかったこともあり不要不急の物にはお金を使わない傾向が強く、旅行についてもあこがれや関心を持たなくなっているという。さらにその世代の子どもたちにも同様の価値観が生まれているという。

「今、観光のキーワードのひとつが旅育です。なんとか若い人たちに旅の楽しさを知ってもらい、旅を通して成長してほしいというもの。私どもとしてできるのは、若者の旅行離れの理由の一つがコストならば、それを抑えること。旅はいろいろお金がかかりますが、そのコストが安かったら、旅への誘発につながるはず」と植田社長はみる。そこで設定した宿泊料金は、税別

ル、イスを設置。ここで女子会を楽しんでもらえるような雰囲気づくりをしたという。また自然光が入るパウダールーム、無料で使用できるシャワールーム、人気メーカーのコスメ商品、ルームウェア完備など、カプセルホテルというイメージを超えた至れり尽くせりの内容となっている。

旅行形態の変化に迅速に対応

ここ数年、外国人旅行者の宿泊が伸びている。「かつて5,000円代で当ホテルを利用していただけた方も、3連泊くらいは普通でしたが、これが3,000円台になれば、ここを拠点として長期の連泊が可能になります。実際に8連泊された方もいました。東京や京都、大阪、いわゆるゴールデンルートでは当たり前の長期滞在型というインバウンド観光のスタイルが、松江でも可能になった」と旅行形態の変化をよみとる。

松江アーバンホテルではこうした動きに対応できるよう、民間では少ない外国人旅行者対応の観光コンシェルジュとしてのインフォメーションデスク資格(JNTO認定外国人観光案内所認定)を取得。駅前の市国際観光案内所が閉まった後などに窓口を利用する外国人旅行者も多いという。さらにホテルスタッフ自ら外国人講師を招いて英会話を学ぶなど、インバウンドへの対応に積極的に取り組んでいる。「これまで観光は流動人口で語られ

3,000円。3泊しても10,000円でおつりがくる。連泊しやすい料金とした。では、その3,000円はどういったものがホテルとして提供できるか。植田社長は多々検討しカプセル式に至ったというが、そこに工夫を加えたという。

工夫を凝らしたキュービックルーム

キュービックルームに設置されるユニット(カプセル)は特注で、間口は1m×1m、奥行き2m。入ってみても圧迫感はなく、防音も施され、利用者からは違和感がないとの声。またユニットを市松型に配置し、上段への上り下りが楽に行えるのも大きな特徴だ。2階を男性フロア、39室。3階を女性専用フロア、42室とし、特に女性専用フロアには快適性とワンランク上のアメニティ、そして旅心をくすぐる工夫を凝らしたという。

「女性の方はカプセルホテルを敬遠されていたところがあり、そのイメージをどう払拭するかが課題でした。カプセルは寝るだけのもので、楽しいものではない。だったら何か楽しめるものを別で作って用意しておくことが必要」と考えた。

例えば女性専用フロアのエンタランスには、細かな棚に松江らしい和菓子のフィギュアをディスプレイし、ゆったりとした広さのラウンジには趣味の良い書籍やまるでカフェのようなテーブルを別から求められるという。「今、DMO(山陰インバウンド機構)と話しているのは、館内の共用スペースを使って冬場に鍋パーティができるかということ。松江に住む外国人も招いて、旅行者たちとの交流を持ち、その人たちが松江は面白いと情報発信することで」とインバウンド客の多いホテルならではの関係づくりに期待を寄せる。

新設されたキュービックルームを一つの手段としながら、これまで松江に興味・関心がなかった層へ、コスト面で旅行を躊躇していた層へ、あの手この手で誘客の仕組みづくりに知恵と工夫を凝らし、奮闘する日々は続く。



浅利観光株式会社
〒690-0845 島根県松江市西茶町40-1
(松江アーバンホテル) TEL0852-22-0002
(松江ニューアーバンホテル) TEL0852-23-0003
(松江アーバンホテルレークイン) TEL0852-21-2424
[Web] http://www.matsue-urban.co.jp/